

研究テーマ：ライティングの力を向上させるためにはどのようにすればいいのか

所属 高知県立安芸高等学校

氏名 濱田静代

RG SH4

1. 研究の背景

対象クラスは、3年文理科の英語選択クラス（男子6人、女子13人）である。英語に対する学習意欲は高く、授業の取組も大変良い。ただ昨年度の模試の結果を見ると、長文読解では得点率も高かったが、語彙と表現力においてはかなり苦手意識を持っている。また、間違いを恐れて積極的に表現しようとする意欲が見られないことも気になるところである。今年の4月に初めてこのクラスを担当することになったが、語彙力のなさがライティング力の伸びない大きな原因ではないかと思い「語彙を着実に増やしていき、それを用いてライティングの力を向上させる」ということを目的として取り組んだ。

2. リサーチ・クエスチョン

効果的に語彙を習得させ、ライティングの力を向上させるにはどのようにすればいいのか

3. 予備調査

予備調査①

昨年度の模試やH16年5月の模試を見てみると、「会話表現」や「長文読解」は得意としている生徒が多いが、全体的に「表現・英作文」得点が極端に低いことが分かった。

予備調査②

対象クラスで行った英語学習に関するアンケートや授業評価システムによると、85%の生徒が英語は「好き」であり、75%の生徒が「授業がわかりやすい」と答えている。授業にも集中でき、積極的に学習する態度が見られた。

ただ、素直でおとなしいため、自ら発言、発表すること、大きな声での音読練習が苦手であることがわかった。また、生徒自ら語彙力の無さに不安を感じているようであった。

4. 仮説の設定

仮説1： 単語の小テストをまめに行えば、語彙に関する意識が高まるだろう。

仮説2： shadowing やクロスワードのようなゲーム性の高い活動を取り入れることで、無理なく語彙を増やすことができるであろう。

仮説3： 語彙が増えると、語順や文法が間違っていたとしても、それを用いて英文を作ろうとする態度に結びつくであろう。

5. 計画の実践

① 各レッスンごとに学習テーマに関連する単語・熟語リストを作り、授業の前に音読練習をした。

② 各レッスンごとに小テストを行い、評価の対象とした。

- ③ 学習した語彙を用い、ライティングの課題をさせた
(自分の書いた文を黒板に書かせ、毎回エバリュエーションシートを作り評価の対象とした)。
- ④ クロスワードやペアワークの教材をALTにも協力してもらい授業で活用した。

6. 実践の結果

- ① 音読練習については、4～5月は恥ずかしさから声も小さかったが、6月頃から積極的に
行えるようになった(ペアワークや shadowing、read and look up も取り入れてみた)。
- ② 小テストに関しては、評価の対象とした為、1学期はとてもよく勉強したが、2学期は手
を抜いた生徒も多くいた。
- ③ 4月当初は、当てられた所だけしか予習していなかったが、テーマごとの語彙が身に付い
たことによって自分で書こうという意識が出てきた。

7. 結果の検証

このクラスは、4月当初のアンケートや模試のデータによると「表現力」に自信のない生徒が多かった。年度初めの授業では、自分が当てられた課題以外は予習せずに、友人や教員の書いた文章をただまる写しにするだけの生徒もいた。「どのようにすればライティング力が向上するのか」と考えたとき、「語順や文型をきちんと理解させること」や「構文を定着させる」などいろいろな対策が考えられた。しかし昨年の模試の結果や定期テストから、語彙力とライティング力を連動させ、語彙を増やすことで効果的にライティング力を上げることができるのではと考えた。

本授業では、トピックごと(学校生活、文化、科学等)にライティングの授業を行ってきたので、それぞれに関連のある単語や熟語を各レッスンの前に学習し、小テストを行うことで定着させた。そして、クロスワードやペアワークのようなゲーム性のある活動を取り入れることによって、おとなしいクラスに活気が出てきた。また選択授業で2つのホームの生徒が一緒になっているが、shadowing や read and look up のような音声学習で明るい雰囲気作りもできたのではないと思う。学習に対する慣れもあるとは思いますが、12月になると、自分で書こうとする態度は明らかに向上したと思う。5月の模試と10月の模試を比較すると、若干ではあるが、本クラスの生徒の「表現・英作文」の得点が上がった。

反省点は、望月テスト等により客観的に語彙の増加が測れなかったことと、ライティング力の向上を模試の結果以外に知ることができなかった点である。その結果、語彙力とライティング力の関連を示すこともできなかった。数値化したデータがなかったために正確な結果の検証ができなかったことが残念である。

8. 成果と今後の課題

今回初めてアクションリサーチに挑戦してみたが、終わった頃になってみて、その何たるかがわかってきた気がする。仮説の立て方や検証の仕方で自分の不十分だった点が多く見られ、残念に思うことも多い。特に、語彙や表現力の増加を見られるデータが、模試以外になかったことが一番の反省点である。しかし、1年を通じてアクションリサーチを行い、それによって教授法を自分なりに考え、学習し、実践してきたことは大きな収穫であった。今回のアクションリサーチは先にも述べたように反省点も多いが、自分自身の次のステップとして成功であったと言っているのではないと思う。

